

# ハッピー

# リタイアメント

～退任にあたって～



## 本学の活性化のために

名誉教授  
金子 豊久

日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所から本学に移り、11年間勤務させていただきました。この間、3、4系の教官はじめ皆様方にお世話いただき深く感謝申し上げます。今学外に出てみると、如何に大学がすばらしいところであったかしみじみと感じられます。大学では若い学生諸君と交わり、“若い人の英気をすって生きている”と言えます。

大学を囲む環境はますます厳しくなってきました。外国特に米国にならって卒業生や民間からの寄付金を集めて大学の資産を増やし、この資金を教官の採用に充当したり、奨学金を作りより優秀な学生を集める方向などが長期の課題と思われれます。短期的には、大きな外部資金を得るために教官の協業により大型プロジェクトを組み、大きな資金を得る課題があります。

学生の学業への意欲を上げるのも課題です。調べてみるとわかりますが、学生の学業意欲をかき立てるインセンティブが皆無に等しいと思います。どれだけ努力しても4年の学部期間を3年や3年半に、修士課程の2年を1年や1年半に短縮することがありません。退職を機に、学生の学業意欲を少しでもかき立てるために情報工学系学生奨励基金を設定し、優秀な学部学生に奨励金を贈らせていただくことにいたしました。



## 新しいことを求めて

名誉教授  
亀頭 直樹

昭和54年春、建設工事の最中の本学にお世話になって以来の新物質探求の生活に終止符を打つことになった。思い起こせば、古い教室を飛び出して創世記の頃の原子力に入った大学院時代から始めて、名大では新しい学科の新しい研究室の立ち上げに参加し、本学では大学の新設、実験室の設計からとそして最後の1年は独立行政法人化、と私の人生は常に新設、立ち上げに巡り合ってきた。当然人間関係も新しく、したがって何のしがらみもなくビジネスライクにいろいろな専門の方々とお付き合いいただいた。全てに新鮮さと緊張感を保てたことが研究面でも自分の気ままに過ごしてこれたことになったと幸運な人生に感謝している。新しいところで新しいことを始めるには、数年間のブランクが研究面でも当然出てくるが、これを恐れては決して新しい局面は拓けない。このことは独法化になって性急な研究成果が要求されるような時代になっても、大学人として真理探究と大袈裟に言わないまでも、人生の終わった頃に納得のいく研究生活を送ってきたと満足できるようになるためには止むを得ないプロセスであろうと信じている。部屋の片付けをした後で、いろいろと思いつくことばかりではあるが、これも自分の能力の範囲内であったのであろうと自省の念もある。ともあれこれからも新しいことを求めて行く人生を送りたい。本学の発展を期待している。



## 或る意味で “ハッピーリタイアメント”

名誉教授  
本間 宏

この3月に大学が独立法人化されて初の定年者4名の一員として退職した。団塊の世代の年金問題に不安がある中で、今の時期の退職は或る意味で、編集者から与えられたテーマ“ハッピーリタイアメント”に当たるのであろう。

大学の建築工学科を卒業して42年は楽しい歳月だったと思う。建築設備の勉強に行ったストッ

クホルム工科大学では機械工学のグループに属し、博士課程学生、研究員と進んだ。カナダの大学で助教授になり、建築教育再組織化のために設立されたセンターで私は機械技術者に分類された。後の25年間は豊橋技科大建設工学系でお世話になった。この系は建築と土木の複合学科で、さらに系の中は3大講座にグループ化され、各大講座とも両方の分野の人達が混在していた。私が属した大講座では、大学の専門よりも、もっと基礎的な部分に共通するものが感じられ、オアシスの安らぎがあったように思う。

大学での先生の役割は学生に専門知識を教え、社会に出すときにその知識の保障人になることと思われる。経済的バブルを体験した現在、学生諸君は講義に真剣に向き合うようになったと感じられる。学生の理数系離れが言われているが、これからこの分野に進む者にとっては大きなチャンスであろう。教員と学生でよいタッグを組み、この大学が技術、科学発展の牽引力を発揮することを願っている。



## 社会は厳しいですよ。

名誉教授  
山本 眞司

22歳で大学を卒業し(名大電子)、それから50歳までの28年間を企業で過ごし(日立中研、日立那珂工場)、そして技科大で15年間を過ごして今日に至りました。従って大学での生活は企業のその約1/2ということで、まだまだ企業人としての体臭が抜け切っておりません。そういう立場から現在の教職員や在校生の皆さんを辛口に見ますと、“みんな甘いなあ”の一言に尽きるように思います。社会の荒波をまともに受けて育った方が少ないから仕方ないのかもしれませんが、...

＊教職員の方々：

法人化されて大学も徐々に企業並みの運営が要求されてくることでしょう。まだ実感を伴ってはいないでしょうが、10年位かけてすっかり変わるんでしょうね。だってねえ、研究をやるのがやるまいが、教育を熱心にやろうがいい加減にやろうが、給料が上がらなければ下がらぬし、常時一定の額が与えられる。その上、首になることなどまずあり得ない。資本主義社会であるはずの日本に、こんな変な小社会が存在するんですね。激しい競争と乱高下する給料(特にボーナス)、そして下手をすればリストラに遭う可能性もある中で生活してきた者からすれば、これはまさに天国ですよ。これでは、仕事は極力

しないで、のんびり雲の上でうたた寝をしている方が良いでしょう。

そういう意味では、大学は制度設計をやり直さないとはいけませんね。特に問題なのは教授職。もう昇進の必要もなくなり、気が緩みます。任期制を採用するならば真っ先に教授職に適用すべきです。成績の悪い20%の教員を再雇用しないという方針でも立てなければ良くならないでしょう。事務職も同様。今の仕事量ならば、職員は半分以下で十分にやっつけられるはずでしょう。とにかく無駄が多すぎるといませんか。大体法人化しても事務職に対する人事権が学長に全然無いというのはナンセンスですし、仕事の内容が2、3年ごとどころどころ変わって、いつまで立っても素人集団のままというのは一体どういうことでしょうかねえ...

でもこういう根本的な制度改革を内部から早急にやろうとしても出来ないかもしれませんねえ。だって、現在の状態が“それほど悪くはない”と思っている教職員が大半でしょうから。何らかの外圧を期待するか、さもなくばじっくり時間をかけるしかないでしょうか？

＊学生の皆さん：

私たちの少年時代は食う物もろくになく、まさに飢餓のどん底からはい上がってきましたから、ハングリー精神だけは旺盛でしたよね。それに対して、豊かな時代に育ってしまった現在の学生さんは可哀想です。ハングリーでも何でもないし、大学で何を勉強したいかもはっきりせず、卒業しても何になりたいかよくわからない。ろくに勉強もしなければ、面白そうな研究テーマも見つからず、何となく就職して数年もするとそこを止めてしまう。こんな中途半端な人間が30代、40代になっても、厳しい社会は受け入れてくれませんよね。そんな人間を雇うよりも東南アジアではもっとやる気のある、基礎をきちんと教育されてきた若者がうようよいますから、何も日本人を雇う必要など無いのですよ。私たちの時代は先に苦労があって、後が少し楽になったのに対して(これを先憂後楽と言うそうです)、今の人は先に楽があって後で苦労が付きまとうことになるでしょうか(先楽後憂という言葉は聞いたことが無いが)。若さが失われた頃に苦労が付きまとうというのは耐え難いことですねえ。これを少しでも緩和するにはどうしたら良いでしょう？

卒業研究、修士研究のための研究室配属選択において、あなた方は少しでも楽をさせてくれる研究室を真っ先に探してください。あれを止めなさい。最も厳しく鍛えてくれる指導教員こそ神様です、そういう所でしっかりとやりなさい。親元で甘やかされればなしで生きてきた人生とさっぱり決別して、数年間の大学生活で自らの精神改造を行うことに取り組んで下さい。後で必ず思い当たりますよ、“ああ、若い内に苦労しておいて良かったなあ”、と。

# 新任教員

# 紹介

生産システム工学系	助手	安部 洋平 Yohei Abe
-----------	----	--------------------



4月1日付で生産システム工学系の助手として採用されました。木更津高専を卒業して本学の学部へ編入学し、さらに修士、博士と進学して、今年3月に博士課程を無事修了することができました。私は、材料に力を加えて塑性変形により成形する塑性加工について研究しています。とりわけ自動車用部品の板材プレス加工について研究しています。研究は地域の企業との共同研究が多く、刺激の多い毎日を過ごしています。まだ助手になりたてのため能力にやや乏しい面もありますが、周りの先生方、学生の皆さんとともに勉強していきますので、どうぞよろしくお願い致します。

情報工学系	助手	夏井 雅典 Masanori Natsui
-------	----	--------------------------



この春、東北大学大学院博士後期課程を修了し、4月1日付けで情報工学系の助手として採用されました。東北大学在学中には、コンピュータサイエンスに関わる研究に携わりとともに、日本学術振興会特別研究員として進化的計算に基づく回路設計支援システムの構築に関する研究を行ってまいりました。今後は、研究の更なる発展はもちろん、今までに得られた知識と経験を生かし、新しい信号処理分野のかたちについて模索していきたいと考えております。教員としてはまだまだ若輩者ではございますが、皆様のお力添えを戴きながら、研究・教育の両面において本学の発展に寄与していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

建設工学系	教務職員	松井 智哉 Tomoya Matsui
-------	------	------------------------



この春、東京大学大学院工学系研究科博士課程を修了し、4月1日付けで建設工学系の教務職員として採用されました。学生時代は、埼玉、千葉、東京と移り住みましたが、豊橋(技科大周辺)は、海や山が近く自然のフィールドがあふれているところだというのが第一印象です。専門分野は、建築構造学で、主に鉄筋コンクリート構造、振動実験、耐震性能評価法を中心に研究を行なっています。近年、比較的大きな地震が多発しており、その被害および社会的な損失も様々なものがありますが、我々の主な生活空間である建築物の安全性の面から、地震による被害を低減できればと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

生産システム工学系	助教授	柴田 隆行 Takayuki Shibata
-----------	-----	---------------------------



4月1日付けで生産システム工学系の教員として採用されました。北海道大学大学院修士課程(精密工学専攻)を修了後、住友電気工業(株)に2年間勤務し、ダイヤモンド薄膜の気相合成に関する研究に従事しました。その後、北海道大学(精密工学科)、茨城大学(機械工学科)で勤務し、微細加工技術の研究とそれを利用したマイクロマシン(MEMS)やマイクロ化学分析システム( $\mu$ TAS)の開発を行ってきました。最近では、細胞などを操作するためのMEMSデバイスにも興味をもって取り組んでいます。本学の発展に少しでも寄与していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

情報工学系	助手	岡本 吉央 Yoshio Okamoto
-------	----	-------------------------



4月1日より情報工学系の助手として来ています。東京大学総合文化研究科の修士課程を修了後、スイス連邦工科大学チューリッヒ校情報科学部の博士課程に3月末まで在籍していました。私の専門は「与えられた問題を効率よく解くにはどうすればよいか」という計算機科学の基本的な問いに関する理論です。この理論の面白い点は、1つの問題に対して様々な攻め方があり、そのそれぞれが互いの弱点を補い合っているところだと思います。それは「効率とは何なのか」といった哲学的な問いにまで発展します。この豊橋でその問いに対する解答を模索していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

情報工学系	教務職員	武田 善行 Yoshiyuki Takeda
-------	------	---------------------------



4月1日付けで、情報工学系の教員として採用されました。平成14年に本学工学研究科情報工学専攻修士課程を修了、平成17年に本学工学研究科電子・情報工学専攻博士課程を修了しました。この度、情報工学系情報システム大講座に着任致しました。現在は、データの種類や分野を問わずデータを分析する枠組みを用いて、大規模な未知のデータ中より、明確には分らなかった法則性や、データ間の因果関係を発見するための研究を進めております。今まではお世話になる立場でしたが、これからは研究・教育を通じて本学の発展に微力ながら寄与していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

知識情報工学系	助手	杉本 俊二 Shunji Sugimoto
---------	----	--------------------------



昨年の11月に知識情報工学系の教員として着任いたしました。東京医科歯科大学大学院医学系研究科博士課程を修了後、ドイツマクデブルクのライプニッツ神経生物学研究所でポストドクとして2年間勤務し帰国いたしました。将来的な研究目標として、ヒトや動物にみられる、シンボル操作を用いた問題解決能力の神経生理学的機構の解明を目指しています。そのため的手段として、動物の脳活動の電気生理学および光学的計測、ヒト脳活動の非侵襲的計測、神経系のコンピュータモデルなどを用いています。既に着任より5ヶ月以上が経っておりますが、本大学の様々な自然科学分野での研究に日々刺激を受けつつ充実した時間を過ごしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

生産システム工学系	助教授	パトレス ラファエル RAFAEL BATRES
-----------	-----	-----------------------------



4月1日付けで生産システム工学系の教員として採用されました。平成10年から東京工業大学資源化学研究所で研究、学生の研究指導を行って参りました。私の専門分野はプロセスシステムスエンジニアリングです。プロセスシステムスエンジニアリングではコンピュータを使用し、製品の概念から廃棄まで、安全性、環境、品質、コスト、ユーザ要求を含む全ライフサイクルを考慮した上でシミュレーションを行ったり、数値解析による分析等を行います。現在はプロセス安全、バイオマスプロセス合成、オントロジー、エージェントシステムなどの研究を続けております。教育の面では学生達の「考える力」を大事にしながら、積極的に実際問題の解決に取り込める人材の育成に全力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

情報工学系	助手	関 洋平 Yohei Seki
-------	----	--------------------



4月1日付けで情報工学系の新任の教員として採用されました。慶應義塾大学大学院修士課程を修了後、今年3月に総合研究大学院大学(国立情報学研究所大学院)で博士(情報学)を取得しました。慶應義塾大学ではXMLデータベースからの多言語テキストの生成について、国立情報学研究所では、利用者の情報要求を考慮した要約の生成に関して研究を進めました。特に、複数の文書から、意見、知識などを重視した要約を作成するという新しい試みを行っています。本学では、知識情報データ処理研究室に配属となり、これまでの経験と新しい環境における使命とを融合させるかたちで、皆様のお力添えをいただきながら、研究を進めたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域協働まちづくりリサーチセンター/ 建設工学系	助教授	松島 史朗 Shiro Matsushima
-----------------------------	-----	---------------------------



昨年10月1日付で建設工学系の教員として採用されました。現在は、地域協働まちづくりリサーチセンター専任助教授として建設工学系助教授を兼務しています。京都大学大学院を修了後、カジマデザイン(鹿島建設建築設計部)に2000年まで勤務し建築設計を担当しました。その間、米国ハーバード大学デザイン大学院にて建築修士を取得し、鹿島退職後一念発起して同大学院博士課程に入学し学位を取得、同校及びマサチューセッツ工科大学で研究員・講師を行いました。リサーチセンターの理念である安全・安心の地域づくりに加えて、住宅計画、デザインテクノロジー、プロジェクトマネジメント等の研究領域と多数の建築設計実務の経験を融合させて、デザインと生産を近づける手法を追求していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

研究基盤センター	助手	内海 淳志 Atsusi Utsumi
----------	----	------------------------



4月1日付けで、研究基盤センターの助手として採用されました内海淳志です。私は、舞鶴工業高等専門学校電気工学科を卒業後に本学電気・電子工学課程3年次に編入学し、修士課程および博士課程を通じて新規の光半導体材料の結晶成長から発光デバイスの開発および評価を行ってきました。本学では、これまでの研究経験を基に先駆的な研究成果を出せるように努めたいと思います。また、微力ではありますが、本学の研究開発を促進する手助けができればと考えています。わからない事ばかりでご迷惑をお掛けすることがあると思いますが、よろしくお願い致します。